

# ICTを導入し、生徒の可能性を引き出し、保護者との信頼関係を強固にする

私立

中高一貫校

男子校

## 城北中学校・高等学校(東京)

学科：普通科

規模：中学校1学年 約280人 高校1学年 約380人 (2016年度)

主な進路状況：東京大学11人、東京工業大学9人、国公立大学医系17人、国公立大学115人  
早慶上理394人 (2016年度入試)

- ＞ 取り組み
- ICT活用を多方面でチャレンジ、よい活用を共有・促進していく
  - Classiをプラットフォームに、保護者と円滑なコミュニケーションを構築

### 生徒・保護者の学校活動の充実を目指したICT・Classi導入

———— ICTを貴校に導入した背景についてお聞かせください。

**井上先生** 東京都北区の区立桐ヶ丘中学校元校長の永嶋昌博先生と知り合うこととなり、iPadなどのICTツールを活かした授業や海外とスカイプで英会話の授業をしていたという話を聞きました。それをきっかけに、様々なICTに関する研究会などへ参加するうちに、最初は一斉授業で、例えばモニターに理科の実験の様子を投影するくらいのイメージしかなかったのですが、生徒が一人1台タブレットを持ったら、もっとすごいことができるなど感じるようになっていました。

20年以上指導をしてきて、一斉授業の限界も感じていました。どんなに一生懸命に指導をしても、生徒のモチベーションが上がらないと受け入れてもらえない。

**井上先生** でもICTが入ることによって、能動的に生徒たちが学習し、学びに向かっての一步を踏み出す垣根が低くなるということを感じました。

2015年度から元々あったIT委員会(PC調達やWi-Fi設置などを行っていた)という組織を、ICT委員会へ発展させ、活動の幅を広げてきました。2015年度7月には全教員へiPadを配布し、授業での利用をスタートしました。2015年度3月で全教室にWi-Fiの設置を行い、2016年度の9月からは生徒用の共有タブレットを160台導入しました。

2014年度：ICT教育に関する研究



2015年度7月：全教員へiPad(セルラーモデル)配付



2015年度3月：全教室へWi-Fi設置



2016年度9月：生徒用共有iPad pro  
(セルラータブレット)160台導入

▲ICT導入の流れ





Classi導入の背景を教えてください。

**井上先生** 2014年度に研修会などの視察でClassiの存在を知りました。導入すれば大きく2つの目的を実現できるのではないかと思います、導入に至りました。

1つ目は「生徒カルテ」を通じて、学校全体で生徒を多面的に把握し、指導に活かすという点です。生徒の情報や特徴を、全教員でいつでもどこでも確認できるということ、今後アクティブ・ラーニング型の授業が広がっていく中で重視したほうがよいと感じました。アクティブ・ラーニング型の授業は一斉授業よりも、生徒一人ひとりにダイレクトに関わる機会が増えるので、生徒一人ひとりの様子も具体的に見えてきます。事前に他の先生からの共有情報で「今、学習に対しては調子が悪そうだけど、部活で〇〇があったからだな。」といったようなことを踏まえ、適切なタイミングでアドバイスをすることが出来るようになると思いました。

2つ目は校内グループなどのコミュニケーションツールを通じた、保護者とのコミュニケーションの進化です。これまでも保護者の方とは、紙やメールアドレスを利用してコミュニケーションをしていましたが、限界がありました。Classiを活かすことで、コミュニケーションの質をより充実させることが出来るのではないかと考えました。



▲タブレットを利用したアクティブ・ラーニング型授業の様子

## エバンジェリスト先生の認定など、小さな一歩から踏み出す

ICTを導入しても、学校活動として浸透が難しいといったお話をよく伺いますが、貴校ではどのような工夫をされ、ICTの活用促進をされていますか？

**井上先生** どの学校も一緒だと思いますが、全ての先生方がすぐに活用するというのは難しいと思います。本校では「エバンジェリスト」(ICTの活用を先導する担当)の先生を4名認定し、生徒用の共有タブレットなども優先的に貸し出して、ICTを授業に活かすチャレンジをしていただいています。2020年度の入試改革を見据えてということもあるため、中1・中2生の先生方から認定を行い、授業を実践していただいています。

そして、その実践を定期的に報告会という形で共有しています。報告会に関しては、月に1回くらいのペースで実施していますが、複数の先生方が参加をしてくれています。

一斉に全員を動かすという形式ではなく、お互いに模索する中で、学んだり、気づいたりを共有し合っています。

Classiの機能を活用した実践例もありますか？

**井上先生** 1つ目の目的で掲げていた「生徒カルテ」に関しては、ICT委員会と進学指導部が協力して学校内の定期考査結果や外部の模擬試験結果などはデータをアップし、情報を蓄積していきました。それを活かそうという動きも出てきており、現高3生の担任が面談記録を「生徒メモ」につけてくれました。

学校全体で足並みを揃えるというのは今後になりますが、全体でICT活用を進めていくためのヒントが、各先生の活動を通じて蓄積されています。





近況 血 志望校 成績 学習 生徒メモ

定期考査・その他テスト

1学期期末テスト 2016.07.06(水)~2016.07.11(月)	
H3数学a	H3数学β
H3化学(理)	H3化必
H3化演	H3体育
H3コ英III	H3英表II
H3英副	H3英表II(計)

第1回 駿台全国模試 2016.05.29(日)~2016.05.29(日)

第1回河合塾全統記述模試 2016.05.15(日)~2016.05.15(日)

近況 血 志望校 成績 学習 生徒メモ

生徒メモ

投稿場所  授業記録  生徒カルテ

投稿期間  ~  投稿者

投稿内容

Q メモを絞り込む

2016/05/31(火) 15:17 【第1回面談】 ・英語:河合塾 塾のテキスト、シス単、アップグレード  
・数学:1対1演習  
・化学:セミナー 学習進度が不安  
[志望校]  
①[ ]・教育 ②[ ]・物質生命理工 ③[ ]・理工

▲データの蓄積、面談履歴の蓄積(生徒カルテ機能)

**井上先生** Classiを活用し、保護者とのグループを作成して、保護者会の資料をお送りしたり、合宿での様子を写真で報告するなどしています。保護者の方からは大変好評で、リアルタイムに子供たちの様子が分かるので、安心だといったお声もいただいています。

保護者同士での支え合いもグループ内で行われており、スキー用具が用意できなかった新入生の保護者に、先輩の保護者から余っている用具の貸し出しについて打診があったりと保護者同士のコミュニケーションの場としても活かしています。

スキー部 (保護者) 保護者の機能を制限中

先生: 3人 / 保護者: 50人

このグループを検索する

アップロード 投稿する

先生 編集済み 2016/12/29 15:53

スキー部冬合宿5日目。中学生が合流して2日目。とうとう、ようやくよませでトレーニングすることができました。昨年の冬合宿、春合宿はいずれもよませでトレーニングできなかったもので、中1同様、中2も初よませです。昨日の雪が思っていたより多く積もっており、明日以降もよませで、出来そうです。今日の夜からも雪の予想なので、もう一降りお願いします。

さて、今日はGSのトレーニングを行いました。城北専用で1セットを準備していただいて、生徒はガンガン滑っていました。結構疲れたのではないのでしょうか。高校生は5日目ですので、結構疲れは溜まっているはずですが、体調を崩してしまう生徒がいるのではないかと心配していますが、今のところ全員元気です。初心者の一年生も、だいぶ上手になってきました。明日のどこかのタイミングで、ゲートトレーニングに参加させたいと思います。



いいね! 53人中17人がいいね!と言っています。 投稿を編集する

コメントを入力してください...

保護者2 2016/11/23 15:38

高1[ ]母です。昨日はお疲れさまでした。父母会、懇親会でご質問がありましたスキー用具についてまだ購入していない方や道具を見たいけどよくわからない方に向けて、高2( [ ]先輩)、高1( [ ] )が同行してショップ下見を再度計画しています。今週土曜日11月26日午後1時に学校集合で神田のスキーショップに行くことを予定しております。明日の部活でも高校生より説明するとのことですが、参加希望の方はご連絡をください。なお、当日購入したいという方は保護者の方がご同行していただいても大丈夫です。(直接現地で合流していただいても大丈夫です)現在所持している用具を確認した上でご検討ください。よろしくお願いたします。

いいね!を取り消す 53人中8人がいいね!と言っています。 投稿を編集する

▲スキー部の保護者グループ投稿の様子(校内グループ機能)

## 保護者との緊密なコミュニケーションによる信頼関係構築

部活動を軸とした保護者とのコミュニケーションでもご利用いただいていると伺いました。

**井上先生** そうですね、これは2つ目のClassi活用の目的に通じるのですが、現在トライアルということで私が顧問を務めるスキー部で活用を進めています。

元々スキー部は、保護者との関係がかなり密接な部活です。雪山への遠征やスキー用具も高価なものになりますので、保護者の方のご理解やご協力がないと活動が成立しません。父母会もあり、かなり積極的にサポートをしてくださっています。

これまで連絡ツールがメールしかなかったため、全体で双方向のコミュニケーションを取ることは難しい状況でした。



## ICTによって、生徒や保護者が変化をし始めている

- ICTを導入することで、生徒たちが主体的に授業へ“参画”するようになっていきます。アクティブ・ラーニング型授業とICTを取り入れることで、ポーツと座って授業を聞いている生徒がいなくなりました。発言したことのない生徒が、AirDropを使って「先生、資料これだよ！」と授業中に送ってきてくれたり。積極性がなかった生徒もICTというツールで、積極的な一面を見せてくれるようになっていきます。
- 保護者の方からも「保護者グループがあって助かっている」といった声をかなり多くもらっています。紙で一方的に情報発信するのではなく、リアルタイムに子供の様子が分かり、不安があったらすぐに先輩の保護者の方へ相談できるということで、安心感を持っていただけているようです。

成果

次は“生徒一人1台タブレット”のチャレンジに向けて、動き出しています。ICTもアクティブ・ラーニングも「生徒の可能性を信じる」ところからスタートすると思っています。生徒たちの可能性を最大限引き出していける教育活動として、ICTやアクティブ・ラーニングに今後もチャレンジし続けていきます。

お話をお伺いした先生



情報・視聴覚指導部長  
井上昭雄先生

今後に向けて